

「原発ゼロ」声交錯

大飯4号機停止

関西電力大飯原発4号機が15日、約13カ月にわたる営業運転を中断し、定期検査に向けて停止した。再び国内の稼働原発がゼロになる一方、大飯3、4号機を含む再稼働審査は始まっている。国のエネルギー政策が曖昧な中、岐路に立つ「原発銀座」では様々な思いが交錯した。

「再稼働NO」に800人

反町集会

この日、福井市であった「もう動かすな原発！」には県内外から800人(主催者発表)が集まった。東日本大震災の犠牲者に1分間の黙禱を捧げた後、壇上で次々に声を上げた。

小浜市の住職中島哲演さん(71)は「原発密集地で生きていけるを得なかった私たちは、万感無量の思いを込めて今日の国内原発稼働ゼロを迎えた」。敦賀市の無職三元芳さん(67)は、かつてミキサー車を運転して原発建設に関わり、30代後半から反対運動に転じた。「人間のすることに絶対安全はない。県内の原発はもう再稼働させてはならない」

い。勝山市の牧場経営松本忠司さん(68)は「福島は酪農家は牛乳生産ができなくなった。事故を身近に感じた」と話した。

県外からの多くの参加者も再稼働反対と全原発の廃炉を訴えた。2011年5月に大津市へ避難した福島県南相馬市の青田恵子さん(69)は「拝啓関西電力様」と切り出し、「福島には人が住まなくなってきた家がたんとある。ただで貸してやっからよ、オツカアと子と孫つれて住んでみたらよがっぺ」。大津市の無職森茂樹さん(74)は「琵琶湖が汚れたら関西一円の生活がだめになる」。

兵庫県西宮市の嘱託職員木田和男さん(62)は、東京

五輪招致プレゼンでの安倍首相の「コントロール」発言に怒った。「被災地の声を聞けばそんなことは言えないはずだ」。静岡市の無職八木澄人さん(61)は「中

審査を／安全は神話

地元

おい町の時岡忍町長は「少しでも早く審査をしてほしい」と述べ、原子力規制委員会に安全審査を早く終わらせるよう求めた。国のエネルギー政策については「原油高、物価高を見ても原子力は必要」と強調した。

全国原子力発電所所在市町村協議会長の河瀬一治・敦賀市長も「安定した電力を供給してきた関西電力に敬意を表したい」とする談話を発表。原子力規制委員会には「遅滞なく(再稼働の)審査を進め、責務を果たしてほしい」と求めた。

西川一誠知事は、大飯3、4号機の稼働について「意義深いことだった。万全の体制と緊張感を持って

管理することで、安全稼働が十分可能なことを示した」と評価し、「原発の安全運転と活用は、エネルギー資源に乏しい日本が乗り越えなければならぬ大きな課題」とコメント。

おい町で取材に応じた関西電力の豊松秀己副社長は「大飯、高浜、原発の再稼働に取り組み」と話した。

一方、おい町の住職宮崎慈空さん(69)と副住職宮崎宗真さん(54)は「このまま稼働ゼロが続いてほしい」と願った。20年前に高知市と横浜市から町にきた。檀家への配慮から原発への違和感を抑えてきた。転機は東京電力福島第一原発事故。慈空さんは「地震大国では原発を管理できない」。昨年4月に町が開いた再稼働の住民説明会では「原発の安全が神話だったとはつきりした」と発言した。昨年7月の大飯2基の再稼働を、宗真さんは「事故の経験が何も生かされなかった」と憤る。

2人は昨夏から仲間と自然エネルギーの勉強会などを重ねる。「みんなで次のエネルギーを考えたい」

(根津弥、窪大英樹)



福井市中心部をデモ行進する「もう動かすな原発! 福井集会」の参加者ら一同市大手2丁目